

1 基本項目	事務事業名	魚津駅・新魚津駅及び駅前広場等整備事業			担当部署	課名	商工観光課
	予算事業名	魚津駅・新魚津駅及び駅前広場等整備事業			係名	市街地活性化室	
	事業区分	自治事務			電話番号	0765-23-1380	
	事業期間	開始年度	平成25年度	終了年度	当面継続	予会計	一般会計
	目標名	基本目標 2 安全で快適な暮らしやすいまち			科目	2. 総務費	
	政策名	7 魅力ある都市基盤の充実			項目	1. 総務管理費	
	施策名	20 総合交通体系の整備			目	10. 交通対策費	
基本事業名	20-3 在来線の利便性向上			アウトソーシング導入状況	導入済(協働)		
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載		

2 事業概要	事業概要	北陸新幹線開業を見据え、魚津駅・新魚津駅及び駅前広場整備を行うことにより、富山地方鉄道新魚津駅のバリアフリー化、魚津駅・新魚津駅の乗り換え性向上を図るとともに、駅周辺での駐車場整備ニーズの高まりに応え、市民・来訪者の移動の利便性の向上を図る。
	対象	魚津駅・新魚津駅での電車・民間バス・市民バス・タクシー・自転車等利用者(魚津市民および魚津市に訪れる方々)
	手段(活動指標)	魚津駅・新魚津駅の駅舎と周辺整備のための基本構想(調査・設計・概算費用の積算等)の策定を受け、JR貨物用地取得に向けたJR貨物、JR西日本、富山地方鉄道、あいの風とやま鉄道、富山県等関係機関との協議を行う。
	意図(成果指標)	魚津駅・新魚津駅を起点とした市民の移動の利便性向上が図られるとともに、首都圏等からの来訪者が訪れやすくなる。

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	① 基本構想等の策定費用	円	5,500,000	5,460,000	0	0		4,343	
	②								
	③								
	成果指標	① 関係者との協議回数	回	3	4	6	6	100.0%	6
		②							
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円						
	② 委託料	円	5,500,000	5,460,000	330,000			30,000,000
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円						
	⑤ その他	円	185,000	94,800	282,000	148,140	56.3%	270,000
	支出合計(A)	円	5,685,000	5,554,800	612,000	148,140	-97.3%	30,270,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						16,500,000
	② 県支出金	円	1,833,000	1,820,000				
	③ 地方債	円						
	④ その他(使用料、雑入等)	円						
	⑤ 一般財源	円	3,852,000	94,800	612,000	148,140	56.3%	13,770,000
	収入合計	円	5,685,000	1,914,800	612,000	148,140	-92.3%	30,270,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	② 年間所要時間	時間	600	600	500	500	-16.7%	500
	③ 人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	2,520,000	2,520,000	2,100,000	2,100,000	-16.7%	2,100,000
	総費用(A+B)	円	8,205,000	8,074,800	2,712,000	2,248,140	-72.2%	32,370,000

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	◇ JR貨物用地の購入に向けた関係者との協議	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	市民や市来訪者の移動利便性の確保のために、地鉄及びあいの風の乗り換え環境と、周辺のP&R駐車場の整備は目的に合致する。
対象の妥当性					1 妥当である	魚津駅・新魚津駅には、様々な交通機能が集積していることから、駅を利用するすべての方を対象とすることは適切である。
有効性	有効性	A	A	目標達成度	2 目標どおり	平成26年度は、JR貨物や県、JR西日本等との協議を重ね、平成26年9月に将来の整備開始時にJR貨物が所有する土地の購入を行う旨の覚書の締結を行うことができた。
				類似事業の有無	1 なし	対象が限定される駅整備であることから、他の事業に代えることは困難である。
				上位施策への貢献度	1 高い	新幹線開業により、魚津駅には特急列車が停車しなくなったが、隣接する新魚津駅からは、黒部宇奈月温泉駅に十数分で移動することができる。市民及び来訪者の半数以上が鉄道を利用して新幹線駅に移動する意向があった。
効率性	効率性	B	B	コスト効率	2 普通	平成26年度に策定した基本構想では、乗り換え利便性向上のために、新魚津駅を移設することとしている。移設には、電気設備等さまざまな費用がかかることが想定されるが、工法の検討はもとより、各種補助金等を活用することにより、費用が過大とならないような工夫が必要である。
				実施主体の適正化	1 適正である	駅前広場整備を含めた、総合的な交通体系の整備の一環としての駅整備であり、市が主体的に関与する必要がある。
				負担割合の適正化	1 適正である	事業の規模からすると、市単独で費用を賄うことは現実的ではないので、国・県等の支援を得ることは勿論、市民・市議会の理解を得ながら事業を進めることが必要である。
	1次評価(課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要
	後の方針(評価結果)	短時間の中で基本構想を取りまとめることができたが、土地の購入に関する関係者協議やその後の都市計画の進捗には多くの課題があり、関係課のみならず、全庁的に進めていく体制づくりが必要である。				評価結果